

大井綾子様インタビュー

経歴：大学卒業後、日本テレビ放送網株式会社報道局勤務。英 Institute of Development Studies でガバナンスと開発修士号取得。2007年、外務省「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」に第1期生として参加、UNDP 東ティモール事務所に UNV として派遣。UNDP 東ティモール事務所危機予防と復興ユニットで JPO、在アフガニスタン日本大使館任期付き職員を経て、2013年に JICA 入構。人間開発部、南スーダン事務所、総務部を経て、2019年より、アフリカ部アフリカ第三課課長。

国連フォーラムインタビュー <http://www.unforum.org/unstaff/108.html>

2009年7月15日掲載

Q. 現在担当しているお仕事について教えてください。

2019年から JICA アフリカ部アフリカ第三課で仕事をしています。JICAには地域を担当する地域部、平和構築等の課題を担当する課題部、総務部等の官房部署があります。私が所属しているのは地域部の一つで、モザンビーク、マダガスカル、ザンビア、マラウイ、南アフリカ、アンゴラ等、南部アフリカ地域の13カ国を所掌し、JICAの協力方針の策定、案件形成等を担当しています。幸いアフリカの中では紛争の少ない地域ですが、アンゴラは2002年まで内戦がありましたし、ザンビアは周辺国の難民を受け入れている国で、難民の現地統合のプロジェクトもあり、紛争や平和構築と無縁というわけではありません。

Q. いまのお仕事と「平和構築」との関連性はありますか？

それぞれの国の開発計画や社会・経済状況を踏まえ、日本政府及び JICA の方針に基づいて事業を実施していますので、平和構築に特化した仕事をしているわけではありません。でも平和構築の視点を持つことは重要と考えています。例えばモザンビークの北部は、数年前から治安が悪化しています。その原因や新たな協力ニーズ、JICA 事業への影響を考える必要があります。また、JICA 事業が紛争のきっかけにならない、紛争を助長しないという配慮も必要です。

Q. JICA に入られてからのお仕事について教えてください。

2013年にJICAに入構し、人間開発部という部署で主にカンボジアとフィリピンの保健医療協力を担当しました。2015年に希望していた南スーダン事務所に異動となりました。小さな事務所だったので、複数の業務を担当し、総務と広報、マスコミの経験を踏まえたメディア支援やジェンダー分野の仕事をしました。2016年7月に治安が悪化したため国外退避となり、ウガンダから遠隔で業務を続けている途中で、2017年に総務部に異動しました。総務部は組織運営を担う部署で、私は国会対応等を担当しました。2019年からアフリカ部アフリカ第三課で働いています。

Q. JICA では人事異動はどのように行われるのでしょうか。

JICAでは異動の希望を出す機会があります。入構前は平和構築を自分の軸と考えていたので、関連する分野の仕事をしたいと考えていましたが、最初に配属された人間開発部や総務部は平和構築の切り口が見出しにくく、モチベーションの維持やキャリアの方向性で悩んだこともありました。しかし、後から振り返ってみると、JICAで働く上で、また自分の幅を広げる上でも、どの部署も必要な経験だったと思います。

キャリアを積んでいく中で次第に自分の経歴や性格を考えると平和構築分野の専門家として働いていくことは難しいと感じるようになりました。例えば、世界の現場や国際機関では、警察、軍人、弁護士、行政官等として自分の国で類似の実務経験を持つ平和構築分野の専門家がありますが、私にはそのようなバックグラウンドはありません。平和構築の専門家の道を追求するよりも、開発協力や平和構築協力を実施していくマネージャーとしてキャリアを積んでいきたいと思うようになりました。そのため、様々な分野の仕事や組織運営に携わることは重要だと考えています。

Q. 大井さんが仕事をしていく上で大事にしていることは何ですか？

誰に対しても誠意をもって仕事をしたいと考えています。在アフガニスタン大使館で勤務していたときの上司が、非常に優秀な方で周りから尊敬され信頼されていたのですが、それは優秀だからというだけでなく、誰に対しても誠意をもって接しているからだと感じました。私たちの仕事では相手国政府の人や一般市民に加え、日本の関係省庁、自治体、大学、企業など、様々な人や団体と接

します。立場や考えが異なる人たちの話を真摯に聞き、それを理解する努力をして、仕事を進めていくことが大切だと考えています。

Q. 2009年の国連フォーラムでのインタビューの際には JPO として東ティモールに勤務しておられました。その当時、これからも平和構築の分野で仕事をしたい、アフガニスタン、南スーダンに行きたいと述べられました。その通りのキャリアを積んでいるように見えるのですが、JPO 派遣後、どのようにキャリアを構築されたのですか？

東ティモールでは UNV と JPO あわせて 3 年間働きましたが、実務経験としては十分でなく、仕事を選べる立場ではありませんでした。むしろチャンスがあれば何でも挑戦しようと思っていました。アフガニスタンや南スーダンに限定してポストに応募していたわけではなく、無我夢中でやっている間にご縁をいただいた感じです。

私は 20 代前半で結婚した後、1 年間の留学、3 年間の東ティモール赴任で合計 4 年間夫と離れて生活していたので、東ティモールの後は、日本で夫と生活しながら働くことを考えていました。そのため日本で就職活動をしたのですが、なかなか思うようにいかず、海外も含めて仕事を探すようになり応募したアフガニスタン大使館の仕事が決まりました。同時期に PKO の仕事も応募しており、アフガニスタンに向けて出発する当日に面接の連絡がありましたが、タイミングが合いませんでした。

Q. JICA の社会人採用枠を受けるまでの経緯を教えてください。

アフガニスタンの日本大使館で働いているときに、国連機関や JICA、NGO と直接仕事をする機会に恵まれました。JICA は、プロジェクトの立ち上げが遅いと言われますが、政府の人や関係者の話をよく聞き、現地の人々のニーズを調べ、やると決めたことはやりきる組織です。そうした仕事のやり方を見て、またアフガニスタン政府から信頼されていることを肌で感じ、こういう組織で仕事をしたいと思いました。ちょうど社会人採用があり、応募しました。

Q. 大井さんがキャリアに関する意思決定する時に大事にしていることを教えてください。

特に国際協力分野でのキャリアを始めたばかりのときはポストをみたときの

直感に従ってきたと思います。このポストで働きたいと心から思ったときは準備の気合も違うと思います。JICA を受けるときは、どういう働き方がしたいかということも考えながら応募しました。

Q. 大井さんにとっての平和構築とは何でしょうか？

私自身の経験を踏まえ、広義に捉えています。つまり、目の前の紛争を終わらせるだけではなく、紛争の原因が取り除かれ、持続的に紛争が起きないようにすること、だと考えています。例えばアフガニスタンでは、若者の雇用が少なく、その結果として若者が武装勢力に取り込まれてしまう状況があります。普通に仕事をして収入を得て安定した生活ができる、そういった安心感や、将来への見通しを持てるのが、若者が武装勢力に加入しないひとつの方策なのではないかと思います。その観点で、日本は農業やインフラなどの支援を行ってきました。また、南スーダンではスポーツを通じて、他の地域や民族の人と触れあう機会を作り、自分とは異なる地域出身者や民族に対する恐怖や固定観念を取り除き、国としての一体感を醸成するという協力を行っています。こうした取組も平和構築に繋がると考えています。

Q. いまから振り返ってみて、「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の参加はどのような意味があったのでしょうか？

平和構築や開発協力の仕事をしていく上でなくてはならないエントリー・ポイントだったと思います。今振り返れば他の方法もあったのかもしれませんが、当時はどのようにしてキャリアを形成していけばいいのか全く分かりませんでした。「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」に参加することで平和構築に関する知識だけでなく、平和構築分野でどのような仕事があるのかを知りました。また、平和構築分野で働く人とのつながりもできました。

Q. 国際協力、国際開発分野でキャリアを積むにあたり、こういうサービス、サポートがあったら良かった、と思ったことは何かありますか？

平和構築には様々な関わり方、働き方、キャリアパスがあるということを実践的に示すことができると良いと思います。国際機関で働く人材を育成する研修ですが、国際機関で働かなければいけない等、これしか道がないと思ってしまうのはキャリア構築していく上でストレスになると思います。特に今はひとつの

組織で一生働くことは一般的ではありませんし、いろいろなキャリアがあります。私の場合は、現場の経験がない中で UNV と JPO として国連機関で勤務できたことは何にも代えがたい経験でした。ただ、国際機関の文化や働き方に合う人、合わない人がいると思います。また、国際機関で働くということは、日本を拠点にできない可能性もあり、結婚、出産、介護等、ライフステージによっては国際機関で働くのは困難なこともあります。柔軟にキャリアを考えるための選択肢を示すことができると良いのではないのでしょうか。

Q. これからのキャリアプランについて教えてください。

この仕事がとても好きで、引き続き開発・平和構築の仕事、特にアフリカ、そしてアフガニスタンに関わっていきたいと思っています。また、自分ひとりで仕事をするよりも、チームでより良い成果を出せるよう仕事をしていきたいと思っています。更に同じ分野で仕事をしている若い人たちがやりがいを感じ成長できるようサポートしていきたいと思っています。ただ、人生 100 年時代なので、70 歳になったときに何をするかは今考え中です。やはり何かしらアフリカかアフガニスタンに接点をもった仕事をしたいとは思っています。

Q. これから平和構築のキャリアを考えていらっしゃる方へのメッセージをお願いします。

自分もそうでしたが、これからどうなるのか、仕事が見つかるのか、不安で悩んでいらっしゃる方が多いのではと思います。ただ、自分が何をやりたいのか、どういう働き方をしたいのか考えながら仕事を探していけば、きっと道は拓かれると思います。

同時に自分が何をやりたいのかだけでなく、自分がその仕事をすることで提供できる価値は何かという視点も大切だと思います。私自身、20 代の頃は、自分の関心だけで平和構築の仕事をしたと考えていましたが、考えが甘かったと反省しています。大学院等で知識を深め、類似の実務経験を積むことはもちろんのこと、自分だから提供できるアイデアやアプローチを持つことも、仕事を見つけ、評価されるためには必要だと思います。

平和構築のキャリアパスは 10 人いれば 10 通りあります。PKO に入ることや、アフガニスタンで働くことだけが平和構築ではありません。国連だけでなく JICA、NGO、企業など、選択肢はいろいろあると思いますし、個人で何かを

始めることもできます。選択肢は10年前より更に広がっているように思います。キャリアは一樣ではないので、こうでなければいけないと思わず、自分だけのキャリアを築いていってください。

※発言は個人の見解であり、所属する組織の見解を代表するものではありません。